

# さくら



令和8年5月11日(月)

## 一步を退くの法を知るべし

家族関係でも、友人関係でも、これまで良かった関係がギクシャクしてしまうことがあります。このような状態になるのは、多くの場合、ある事象についての双方の捉え方の違いにあります。例を挙げて考えてみましょう。

冬の寒い日の出来事です。休み時間、Aさんはみんなのことを考え、風邪予防のために教室の窓を全開にしました。窓を開けることについては、みんなに声をかけていました。窓からは、冷たい空気が入ってきました。

一部の生徒は、「寒いやん。はよ閉めて。」などと声をあげましたが、Aさんの行動の意図を理解していました。窓を閉めてしばらくすると、BさんがAさんのところにやってきて、次のように言いました。

「換気をするのは分かるけど、あそこまで窓を全開にする必要はないやろ。中には、体調が悪くて寒いのがいやな人もおるかもしれんやん。」

Aさんは、Bさんの発言に少しカチンときました。そして、「みんなのためを思ってやっていることやのに、その言い方はないやろ。」と返しました。すぐにBさんは、「思ったことを、正直に伝えただけで何が悪いねん。」と応酬。この日、Bさんの体調は思わしくなかったようです。

こうなれば、売り言葉に買い言葉。口論はヒートアップするばかり。周囲の人たちは、そのようすをひやひやししながら見守っていました。しかし、心配したCさんが間に入り、どうにか互いの気持ちを収めました。

この例では、Aさんは、みんなが風邪をひかないようにという思いで窓を開けました。善意の行動でした。かたやBさんの発言は、体調の悪い人もいるのだから、そこにも配慮するのが大切だというもの。Bさんの考えも間違っていないかもしれません。皆さんは、この例についてどのように思いますか。

中学生の時の担任の先生から教わった言葉に、「一步を退くの法を知るべし」というものがあります。「仕事でも人間関係でも、うまくいかないときは、自分から一步ひいてみるのが大切」だということです。

Aさんが、Bさんから苦情を言われたとき、Bさんの言い分にも一理あると考え、「そこまで考えてなかったわ。本当にごめん。指摘してくれてありがとう。」と返したら、その後の口論は避けることができたかもしれません。この考えは、家族関係、友人関係、仕事においても大いにいかせるのではないのでしょうか。

<保護者の皆様へ>

学校ホームページで、日々の教育活動のようすを公開しています。どうぞ、本校ホームページを閲覧してください。

